

【日時】 2020年6月29日(月) : 18時~19時 Web 会議

【出席】(順不同・敬称略)

《出席》高木、橋本、野村、松村、飯塚、神尾、長谷川

《欠席》大嶽、八反丸

【議案】

1. 最近の COI 関連の経緯

遠隔 ICU 委員会の委員並びに WG メンバー宛に COI の書類の提出を求めていた件について説明した。T-ICU の中西先生が WG メンバーとして活動していただいていたが、アカデミアの活動と起業家としての活動の線引きが曖昧なのではという疑義が生じた。そのため、委員会や WG メンバーに対して、一度 COI を提出させてアカデミアの活動と企業としての活動の関係性をクリアにするべきであるという結論が理事会で決定された。それに従い、COI の申告を依頼する事となった。

2. 学会と遠隔 ICU に関する動向

横浜市立大学における遠隔 ICU の動向について情報共有した。評価項目の設定、予算の編成などについて情報を共有した。

Tele-ICU 体制整備促進事業に関しては、令和2年度、令和3年度も予算化を予定している。今年度の申請機関は自治医大さいたま医療センター、来年度は湘南鎌倉徳洲会病院が予定している。

今後、多くの病院で導入の評価を行っていき、保険診療化に向けて働きかけていきたい。

3. 今年度の厚労科研費 AI の研究で進めたい点

令和元年度から厚労科研 ICU のパネルデータの利活用の研究を行っており、今年度も同様に進めていく予定である。各施設のデータ構造の違いなどをまとめていきたいと考えている。

令和元年度は横浜市立大学附属病院と京都府立医科大学のデータ構造について比較してみた。

今年度は ICU における標準化データの構造を可視化していく事を考えている。

複数ベンダーがあるため、各社において可視化していく事で、最終的な推奨要件を作成していく事になると思う。

データを扱っている医療機器ベンダーに協力を仰ぐためには、各ベンダーに取ってメリットのある仕組みづくりをしていく必要がある。

これらの事業については、数年間では成立するのは困難である。また、大学間を超えたコンソーシアムとしての活動を進めていく事で恒久的な事業として進めていく必要がある。

学会とも連携する形の NPO の設立を模索しており、概要についてまとまったら共有させていただく。